

月刊

morit

森と未来

09

2023.03

# 荒れる竹林 地域悩ます

タケノコからわずか1年ほどで成竹になり、高さが10メートル以上に達することもある竹。所有者の高齢化などで伐採など管理の手が追いつかず、倒竹被害や、畑の竹林化などを招き、地域住民を悩ませている。荒廃竹林の問題点や対策、解決に向けた地域住民の取り組みなどを紹介する。

国道52号に面した南部町内の竹林。町産業振興課の担当者の案内で急な斜面を登って行くと、伐採された竹が数カ所に整然とまとめられていた。間伐を終えた竹林は、竹と竹の間に柔らかな日差しが差し込み、手入れが行き届いていることを感じ

# 厄介者に使えば財産

させる。

「以前は足を踏み入れる隙間もないほど竹が密集して暗い上、道路に竹が倒れかかる危険もある場所でした」。町担当者によると、高齢になり自主整備に限界を感じていた所有者が2年ほど前、町独自の整備代行事業を活用し状況が改善したという。

同課によると、竹林が整備されず荒れたままになっていると、イノシシなど害獣のすみかになったり、隣接する畑に侵食して竹林化させてしまったりする。スギやヒノキが育つ人工林に広がると、林業の妨げになることも。人が立ち入れないほど竹が密集してしまおうと手入れ自体が難しくなり、次々と荒廃が

## ワード解説

### 南部町の竹林整備代行事業

所有者に代わって竹林を整備する独自事業。15年度から18年度までは、NPO法人なんぶ里山研究会(佐野敏明理事長)が国の交付金を活用して実施。国の交付金が終了した19年度からは、町が森林環境譲与税を活用した事業として、所有者と事業者をつないで、費用の9割を負担する取り組みをスタートした。15年度から22年度までの累計で、158件約240畝の整備が完了した。

広がる負の連鎖に陥る。

担当者は「未整備イコール所有者が放置、というわけではありません。成長が早い竹に対し、所有者の高齢化や跡継ぎの町外流出などで管理する側の手が追いつかないケースが増えているのが実情です」と説明する。



JR身延線沿線で、危険な竹の除去作業をするJR東海の社員ら(同社提供)

て、地権者の許可を得て線路に倒れる可能性がある竹を伐採したり、防竹ネットを一部区間に設置したりしている。

南部町では竹林整備代行事業が始まった15年度以降、状況が徐々に改善しているという。ただ、代行事業が利用できるのは、ひどく荒廃した竹林を自力整備可能な状態にする1回のみ。その後は、所有者が自前で取り組みなければならぬ。

町が全戸を対象に2014年度に実施したアンケートでは、「整備ができていない」と答えたのは回答した竹林所有者の3分の1にとどまった。竹林整備の問題は南部町に限らず、隣接する身延町などでも大きな課題。影

響は公共交通機関にも及んでいる。

JR東海静岡支社によると、県内全域で大雪となった今年2月10日、JR身延線沿線で複数の竹が線路上に倒れかかっている様子を係員が発見。安全確保作業のため西富士宮―甲府駅間の上下線の一時運休を余儀なくされた。同社は防止策とし

町は本年度、森林環境譲与税を活用し、伐採した竹をチップ状に粉砕する機械を購入。竹林所有者に無償で貸し出し、自主整備に役立ててもらおう事業を来年度以降始める予定だ。町担当者「伐採した竹を運んでまとめるのは重労働です。その場で処理できれば負担軽



整備された竹林。2年ほど前までは足を踏み入れる隙間もないほど竹が密集していた



整備前の竹林。道路へ竹が倒れかかる危険もあった(南部町提供)

減になる上、チップは竹林の肥料にもなります」と話す。伐採した竹を収益につなげるという独自のアプローチで、所有者の意欲を高めようと試みる住民有志も現れた。荒廃竹林の整備などを進めているNPO法人なんぶ里山研究会(佐野敏明理事長)は19年、伐採した幼竹を原料にした塩漬(しおづけ)メンマづくりをスタート。新たな特産品にしようと呼んでいる。

3月中旬、同研究会の作



塩漬(しおづけ)メンマの乾燥具合を確認するNPO法人なんぶ里山研究会のメンバー。メンマは町のふるさと納税の返礼品にもなっている  
=いずれも南部町内

業所を訪れると、集まったメンバーが塩漬(しおづけ)にしたメンマを乾燥(かんそう)させたり、食べやすい大きさに丁寧(ていねい)に切り分けたりしていた。

佐野理事長によると、メンマは高さ3メートルほどまで育った幼竹が原料。タケノコと違って地面を掘(ほ)る必要がないので身体的負担が少なく、高齢の所有者でも生業(なりわい)にしやすいという。現在メンマの販売価格は1グラム1.5〜2円程度

だが、県内外の評価を高めて1.5倍から2倍まで伸ばしたい考えた。

「南部産のタケノコは味が良いと評判。それは竹が良いからで、メンマにも同じことが言えるはず。厄介者(やっかいもの)にも見えますが竹は町の財産。まずはわれわれが活用(かっく)のモデルケースを示し、動きを広げていければ」。黙々と作業(さくぎ)を続けながら、佐野理事長は明るい未来(みらい)を見据(みま)えた。

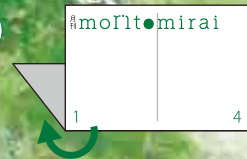
# mirai



やまなしSDGsプロジェクト

## この紙面の読み方

1



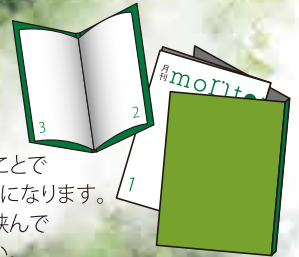
この面を  
表のまま  
二つ折りに  
します。

2



さらに上半分の面が  
表になるように  
四つ折りにします。

3



四つ折りにすることで  
冊子状の読み物になります。  
ファイルなどに挟んで  
保存してください。

月刊moritomirai

次号は4月29日(土)予定

本紙面は山梨の森林サイト  
「moritomirai」でもご覧いただけます  
企画制作：山梨日日新聞社広告局



*moritomirai.com*



Sannichi YBS Group

illustration : オエムシ